

京大メディアC

水中をぐるっと撮影

全方位カメラ、白浜でテスト

京都大学学術情報メディアセンター(京都市)が、周囲360度と上部を写すことのできる全方位デジタルビデオカメラによる遠隔水中生態観測システムを開発した。今年7月から白浜町臨海の京都大学白浜水族館や島島などでフィールドテスト

トをしており、実用化される。実験室から即時の海洋生態観測が可能になり、海中版「プラネタリウム」を作ることにもできるといふ。

同センターの森義昭・助教授と波部斉・助手が情報学研究科の松山研究室と共同で研究している。

る。装置は6体のカメラが組み合わされ、同時に全方位の詳細な状況を映し出す。

肉食魚が小魚を追いかけるシーンなどでは、1度に双方の反応を撮影でき、生態研究に活用できるようにになる。また、光ファイバーを使った遠隔撮影が可能で、インターネットを通じ京都市の実験室に即時で映像を送ることもできるようになる。

現在、京都デジタル水ネットワークを利用して、同センター舞鶴水産実験所と同大学吉田キャンパスを結んだ遠隔生態観測システムを構築中。全方位デジタルビデオカメラを使った本格的な海洋での撮影は来年以降に予定だ。